

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）  
令和2年度採択テーマ  
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合評価
豪雨時の細粒土砂の挙動を考慮した掃流状集合流動区間の土砂動態解析手法の提案 (研究期間：R2年度～R4年度)	筑波大学 教授 内田太郎	A
<p>&lt;研究概要&gt;</p> <p>本研究では、既往理論に基づく数値解析手法の適用性の検証、水路実験による掃流状集合流動における土砂動態の検証を通して、土砂・洪水氾濫対策検討に実装可能な解析手法の提案を目的とした。その結果、土石流中の細粒土砂の挙動や掃流状集合流動の機構に関する理論に基づき作成した解析プログラムにより、大規模崩壊地から継続的に生じる土砂流出、新規崩壊により生じる大量な細粒土砂の流出のいずれの現象も、条件設定に必要な現地調査結果が取得できれば、概ね再現可能であることを示した。</p>		
<p>&lt;事後評価コメント&gt;</p> <p>本研究では、土石流・掃流状集合流動区間において、細粒土砂の挙動を考慮した土砂動態解析手法を提案した。また、画像解析により、実験水路中の土砂濃度を推定する新たな水路実験方法を提案するとともに同手法の有効性を示した。これらの研究成果は、土砂・洪水氾濫の予測や効果的な対策への活用が期待できる。</p> <p>今後は、引き続き研究を継続することにより、掃流状集合流動区間における土砂動態の未解明プロセスを明らかにしていただきたい。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い